

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

サンバイオ株式会社

東証グロース：4592

2024年4月25日



# 目次

---

- 1 会社概要
- 2 ビジネスモデル
- 3 研究開発状況
- 4 市場環境
- 5 事業計画
- 6 リスク情報

# 1. 会社概要

# 会社概要

---

会社名	サンバイオ株式会社
設立	2013年2月（SanBio, Inc.創業は2001年2月）
代表者（創業者）	代表取締役会長 川西 徹、 代表取締役社長 森 敬太
創業科学者	慶応義塾大学 岡野栄之教授
事業内容	再生細胞医薬品の開発・製造・販売
所在地	東京都中央区明石町8番1号
子会社（所在国）	SanBio, Inc.（米国）
従業員数	連結：29名 / 単体：29名（2024年1月31日現在）

# ミッション・ビジョン

## Mission

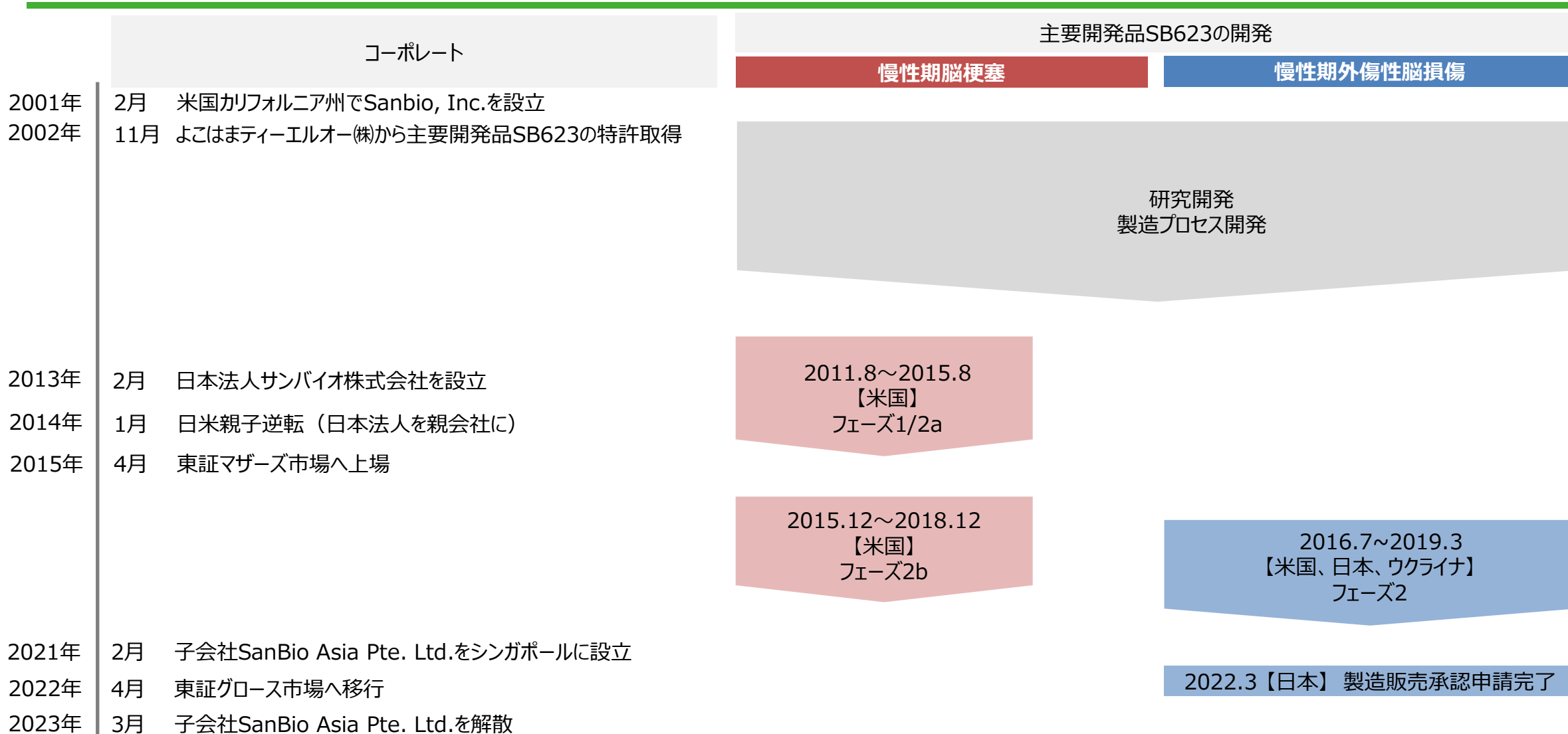
サンバイオは、再生医療の開発を通して、患者様をはじめとしたステークホルダーの皆さまへ価値を提供いたします。

## Vision

再生医療分野でのグローバルリーダーを目指します。



# 沿革



# 執行体制

国内SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの承認取得及びその先の事業拡大に向けた強固な執行体制を整備

業務執行取締役



代表取締役会長  
川西 徹



代表取締役社長  
森 敬太

執行役員



常務執行役員  
人事、信頼性保証・薬事、  
日本・アジア事業担当  
束原 直樹



生産部長  
中田 圭三



信頼性保証・薬事部長  
澤口 和美



研究開発本部長  
平田 晋也



経営管理部長  
角谷 芳広

## 2. ビジネスモデル

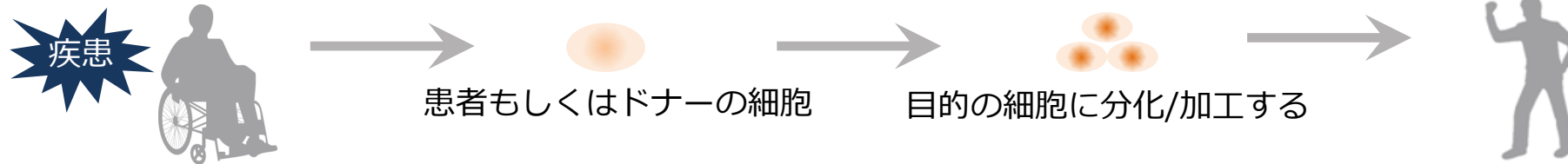


# 再生医療とは

再生医療は従来なし得なかった根治治療を可能に

再生医療とは

「損傷を受けた生体の機能を、幹細胞などを用いて復元または活性化させる医療」

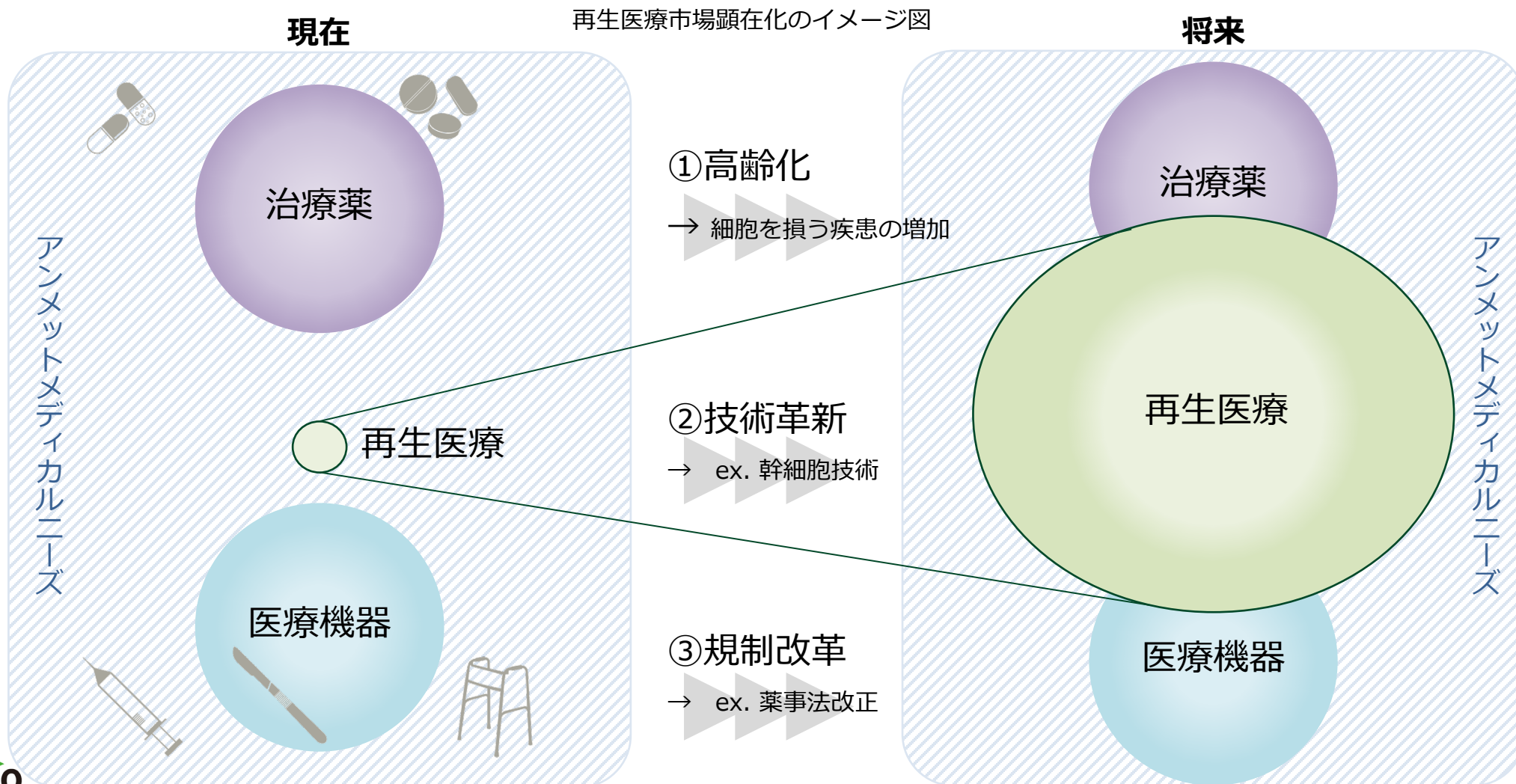


再生細胞薬とは

- ▶ 当社グループが手掛ける**再生細胞薬**は、病気・事故等で失われた身体機能の自然な再生プロセスを誘引ないし促進させ、運動機能、感覚機能、認知機能を再生させる効能が期待される**医薬品**。

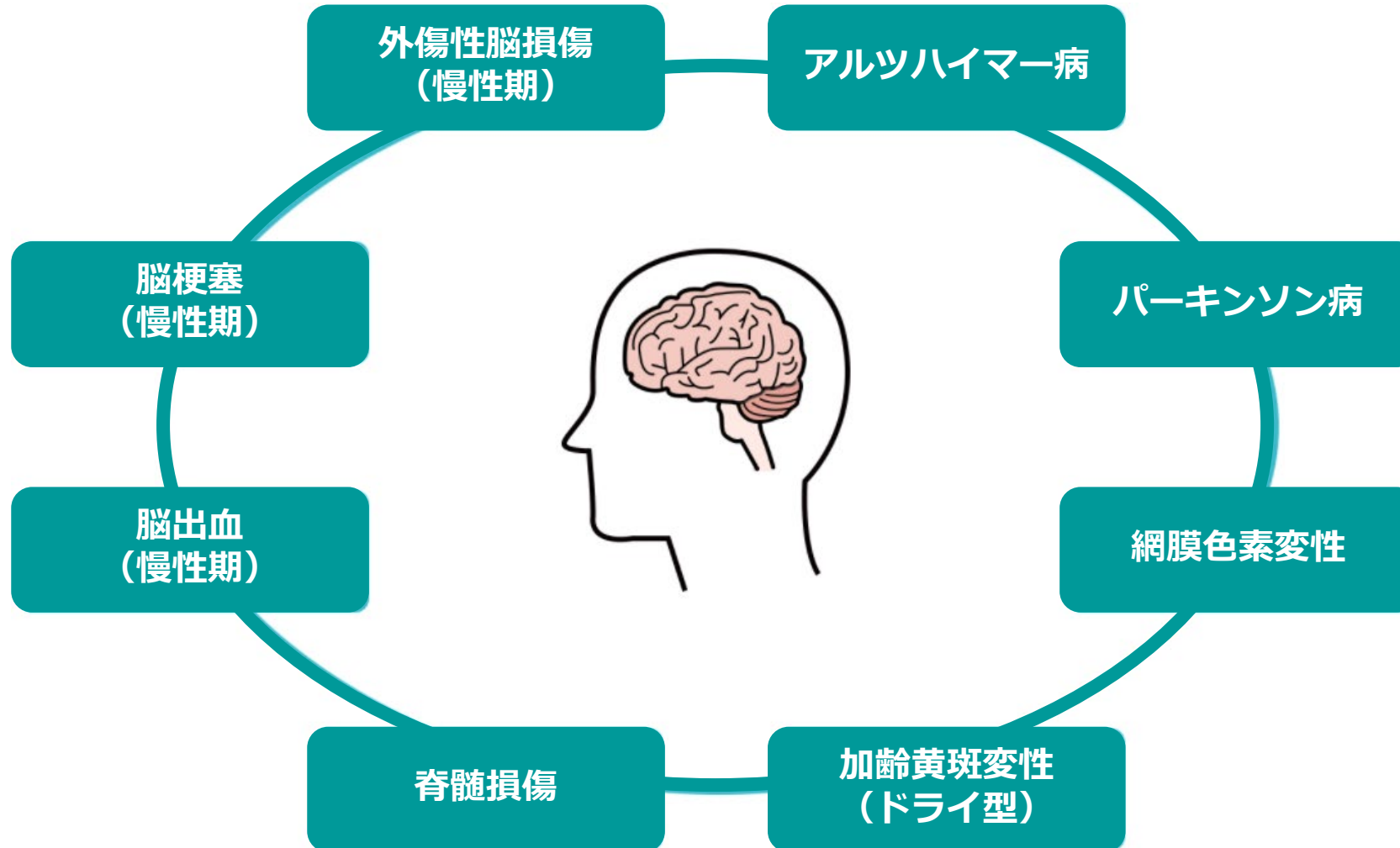
# 事業領域（再生医療）

## 市場拡大が見込まれる再生医療分野での事業推進



# 事業領域（中枢神経系疾患）

既存の医療・医薬品では対処できない中枢神経系領域の疾患に注力



# パイプライン

現在は国内SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの承認取得に特化している  
この承認取得後、その他の開発品に順次着手する予定

細胞	対象疾患	研究	非臨床	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ3	申請
SB623 慢性脳損傷	外傷性脳損傷	日本	→				→
		米国	→				
	脳梗塞	→				フェーズ2b (日本)*1	またはフェーズ3からの開始を見込んでいます。
	脳出血	→				フェーズ2b (日本)*1	またはフェーズ3からの開始を見込んでいます。
SB623 網膜疾患	加齢黄斑変性（ドライ型）*2	→		Ocumension社と中華圏における業務提携			
	網膜色素変性*2	→		Ocumension社と中華圏における業務提携			
SB623	パーキンソン病	→					
	脊髄損傷	→					
	アルツハイマー病	→					
SB618	末梢神経障害 等	→					
SB308	筋ジストロフィー	→					
MSC1	がん疾患	→					
MSC2	炎症性疾患	→		D&P社と業務提携			
	視神経炎*2	→		Ocumension社と中華圏における業務提携			

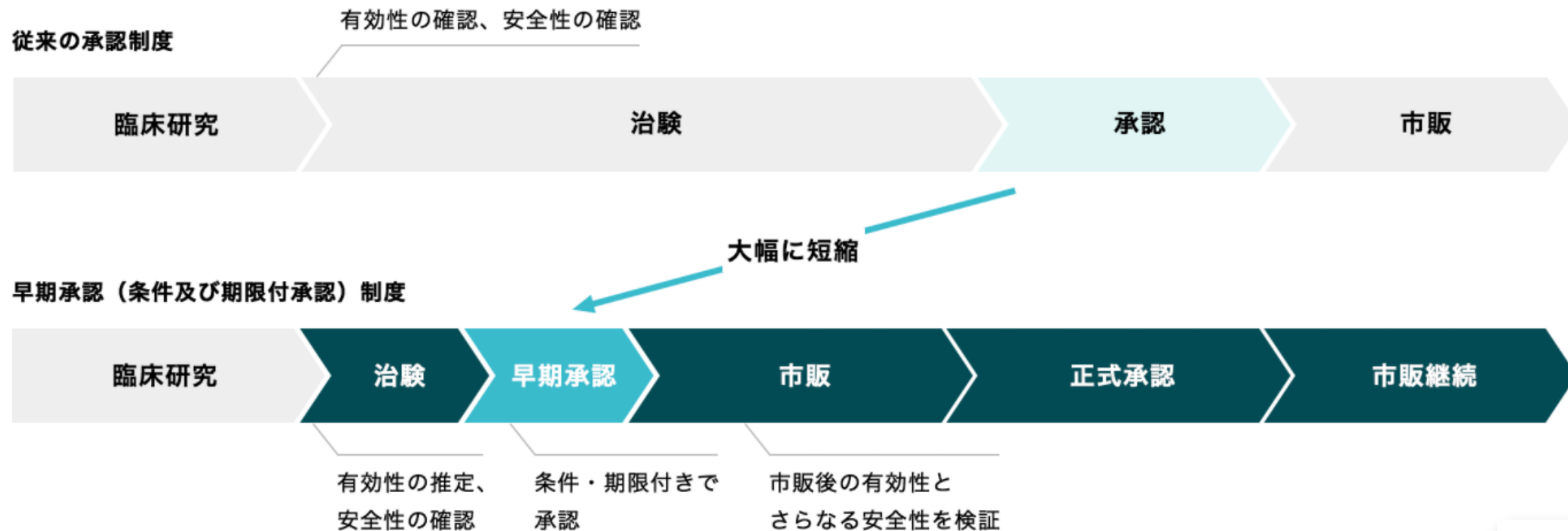
\*1: これまでの慢性期脳梗塞及び慢性期外傷性脳損傷の臨床試験で安全性が確認できているため、フェーズ 2 b臨床試験以降から開始。

\*2: OCUMENSION (HONG KONG) LIMITED社との共同開発

\*3: D&P Bioinnovations, Inc社と食道再生インプラントの開発及び商業化に関する業務提携

# 事業環境（日本）

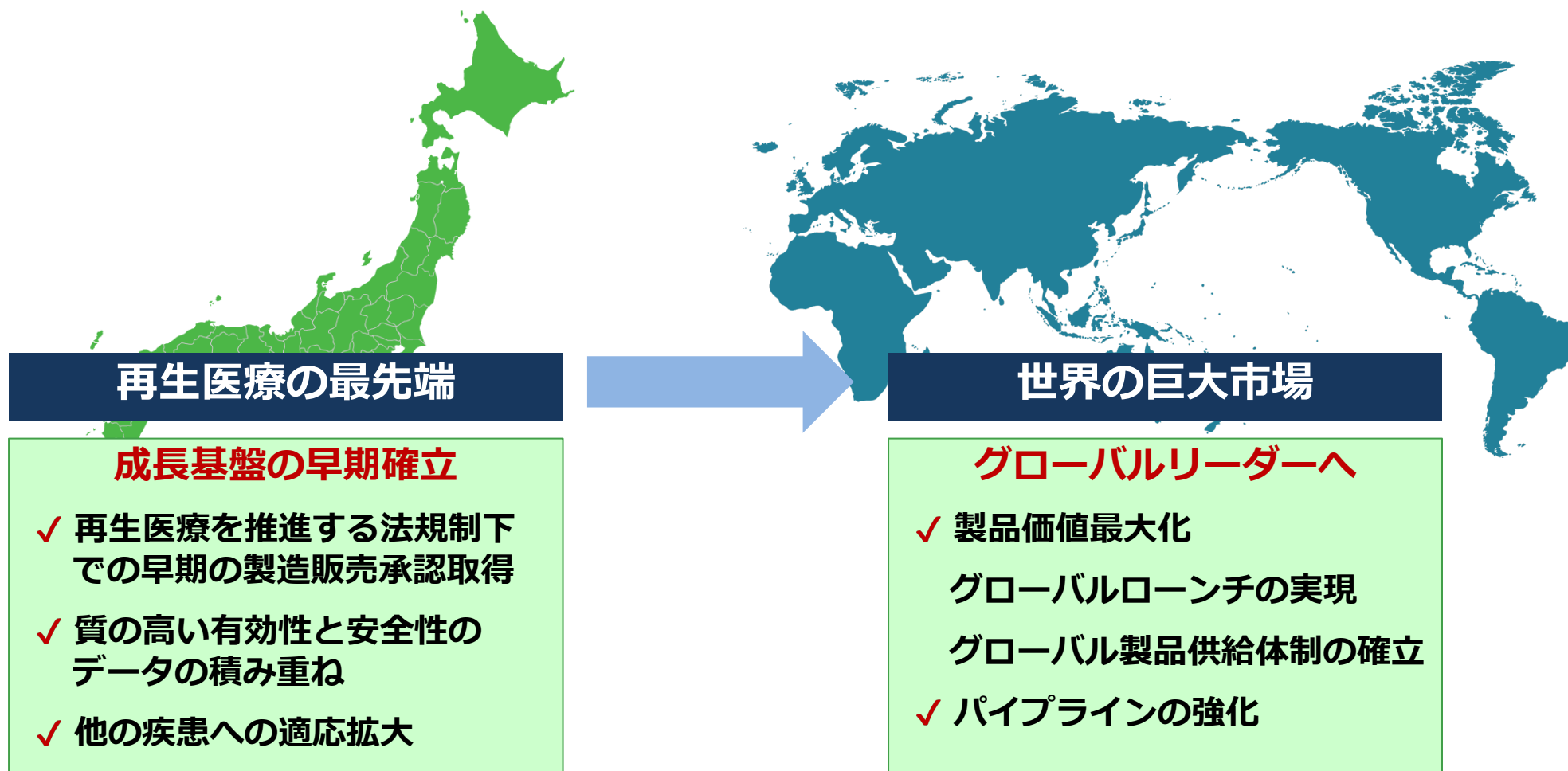
早期承認（条件及び期限付承認）制度\*により、販売までの期間が大幅に短縮



\*均質でない再生医療等製品については、有効性が推定され、安全性が確認されれば、条件及び期限付きで特別に早期に承認できる仕組み。

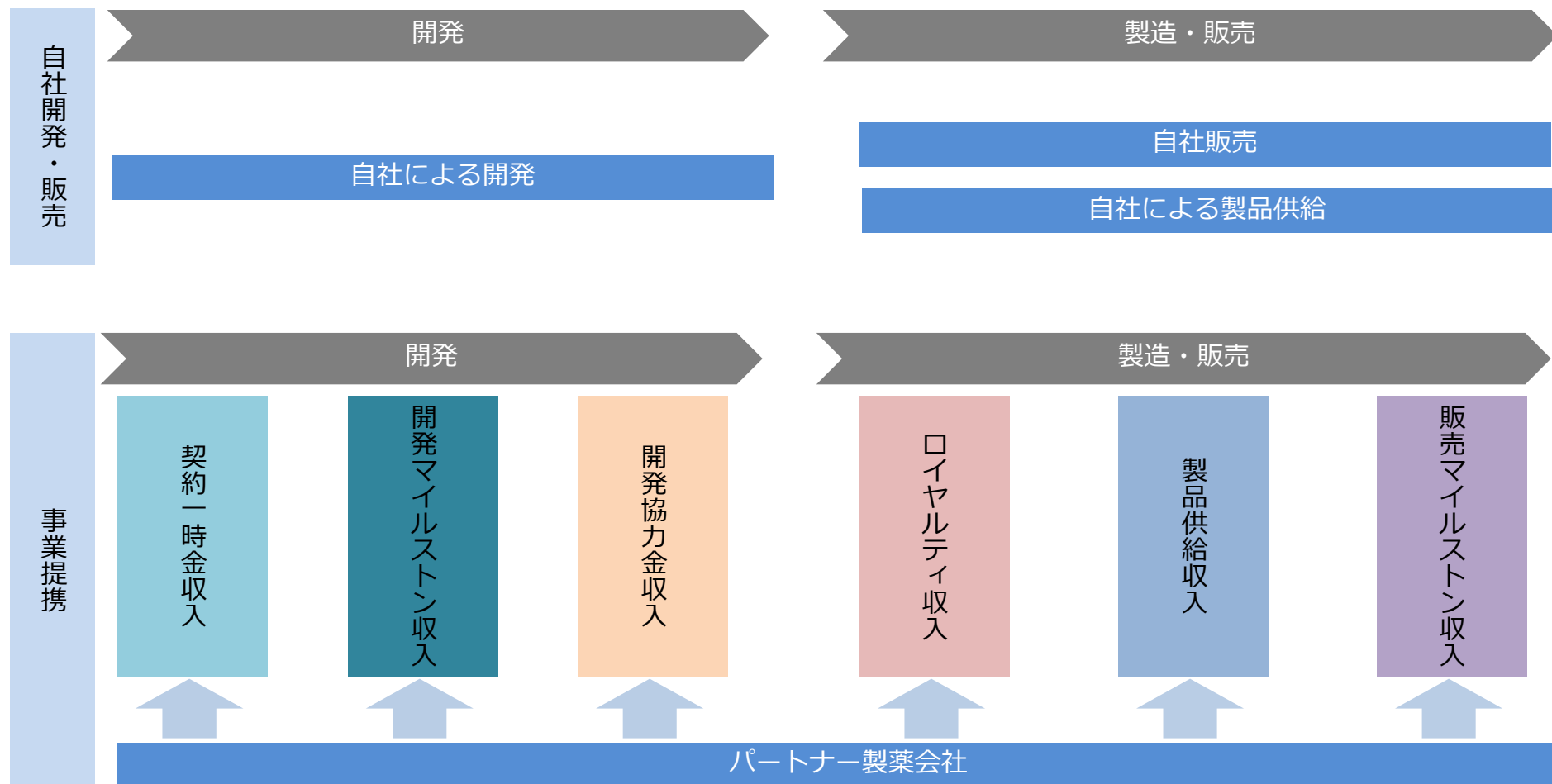
# グローバル展開

事業環境の整備された日本で成長基盤を早期に確立し、グローバル展開することで、製品価値の最大化を目指す



# 収入モデル

収入は自社開発・自社販売、又は 製薬企業との事業提携による収入を見込む



(注) 国内SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムについては、自社販売を目指す。その他のプログラムについては、状況に応じて、自社販売又は製薬企業との事業提携の選択を検討する。

# 3. 研究開発状況

## 主要開発品SB623

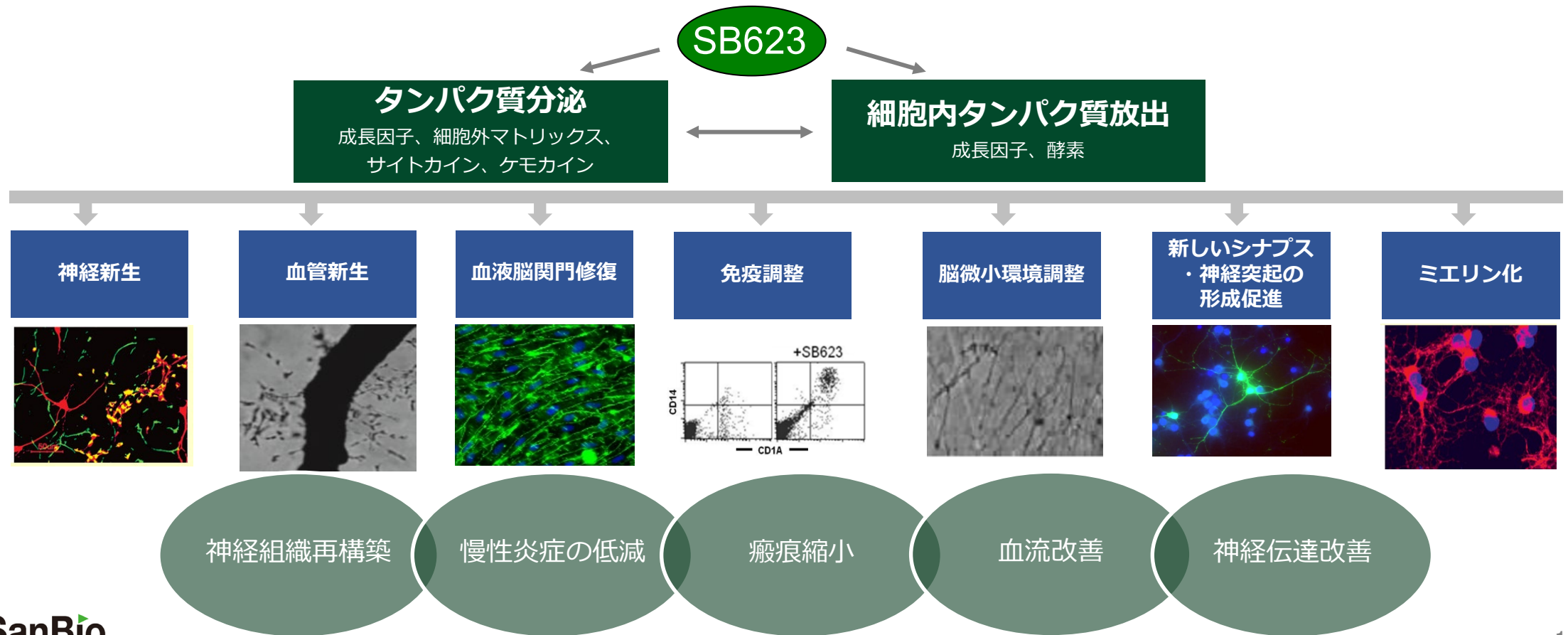


# 主要開発品SB623

## SB623（国際一般名：バンデフィテムセル）とは

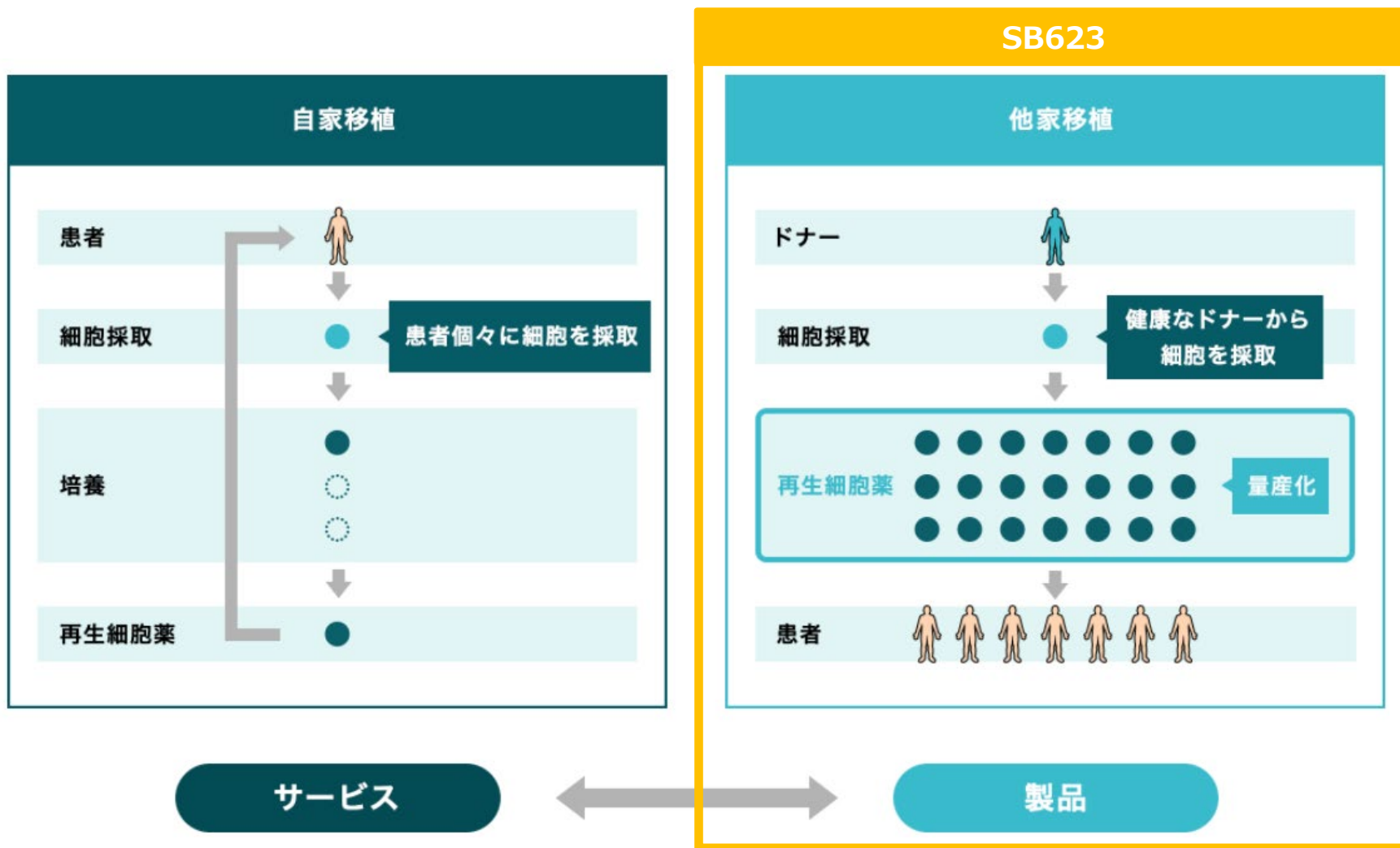
健康成人骨髄液由来の間葉系幹細胞を加工・培養して作製されたヒト（同種）骨髄由来加工間葉系幹細胞。脳内の損傷した神経組織にSB623を移植すると、損傷した神経細胞が本来持つ再生能力を促し失われた機能を回復させる効果が期待されている。

想定される作用機序



# SB623 : 他家移植

量産化可能で、多くの患者さんに届く、スケーラブルな再生医療



# SB623 : 使用モデル

従来の医薬品と同様の使用モデルが適用可能で、上市後すみやかに患者さんへお届け可能

製造から投与までの流れ（脳に移植する場合）



# SB623 : 対象疾患

中枢神経系疾患の中でも特にアンメットメディカルニーズが高い慢性期を対象とする

【既存の治療方法】

				SB623の対象領域
		超急性期	急性期～回復期	慢性期
外傷性脳損傷		<p>発症後、一定の時間内に処置しないと効果がない上、時間内に処置できたとしても治癒率は決して高くない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動療法</li> <li>リハビリテーション</li> <li>二次障害の予防</li> <li>手術</li> <li>抗浮腫療法</li> </ul>	<p>(受傷から12か月以降)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーション</li> </ul> <p>予防・改善効果は限定的</p>
	脳梗塞		<ul style="list-style-type: none"> <li>血栓溶解療法</li> <li>血栓回収療法</li> <li>抗浮腫療法</li> </ul>	

# 3. 研究開発状況

## SB623慢性期外傷性脳損傷プログラム

# 慢性期外傷性脳損傷フェーズ2臨床試験

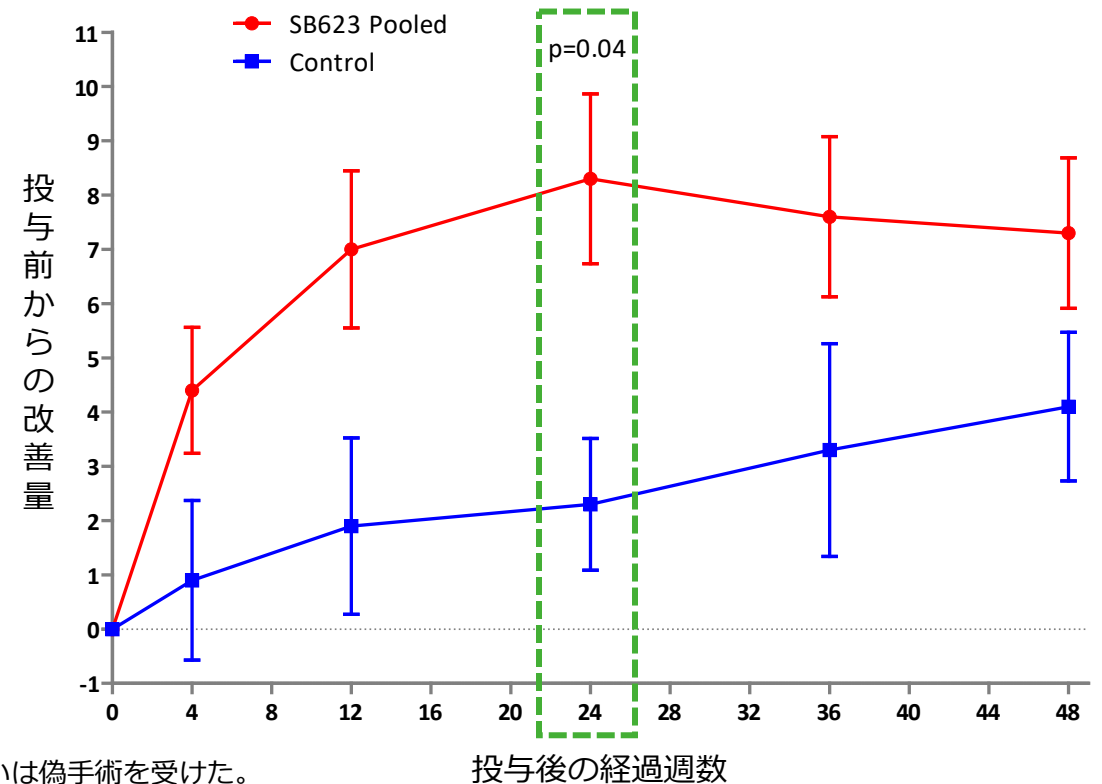
SB623投与群は、対照群と比較して統計学的に有意な運動機能障害の改善を認め主要評価項目を達成

## 【試験概要】

- 試験デザイン：多施設共同、無作為化、二重盲検、偽手術対照
- 試験期間：48週間
- 被験者数：61名\*
  - 外傷性脳損傷受傷後12ヶ月以上経過
  - 局所病変を伴う脳損傷に起因する運動障害を有する
  - 中等度～重度の障害患者
    - GOS-E 3-6
- 群構成：250万個:500万個:1,000万個:対象群 = 1:1:1:1
- 有効性評価項目
  - 主要：24週時点のFugl-Meyer Motor Scale (FMMS)
  - 副次：24週時点のDRS, ARAT, Gait Velocity, NeuroQOL, GRPC

## 【試験結果（有効性）】

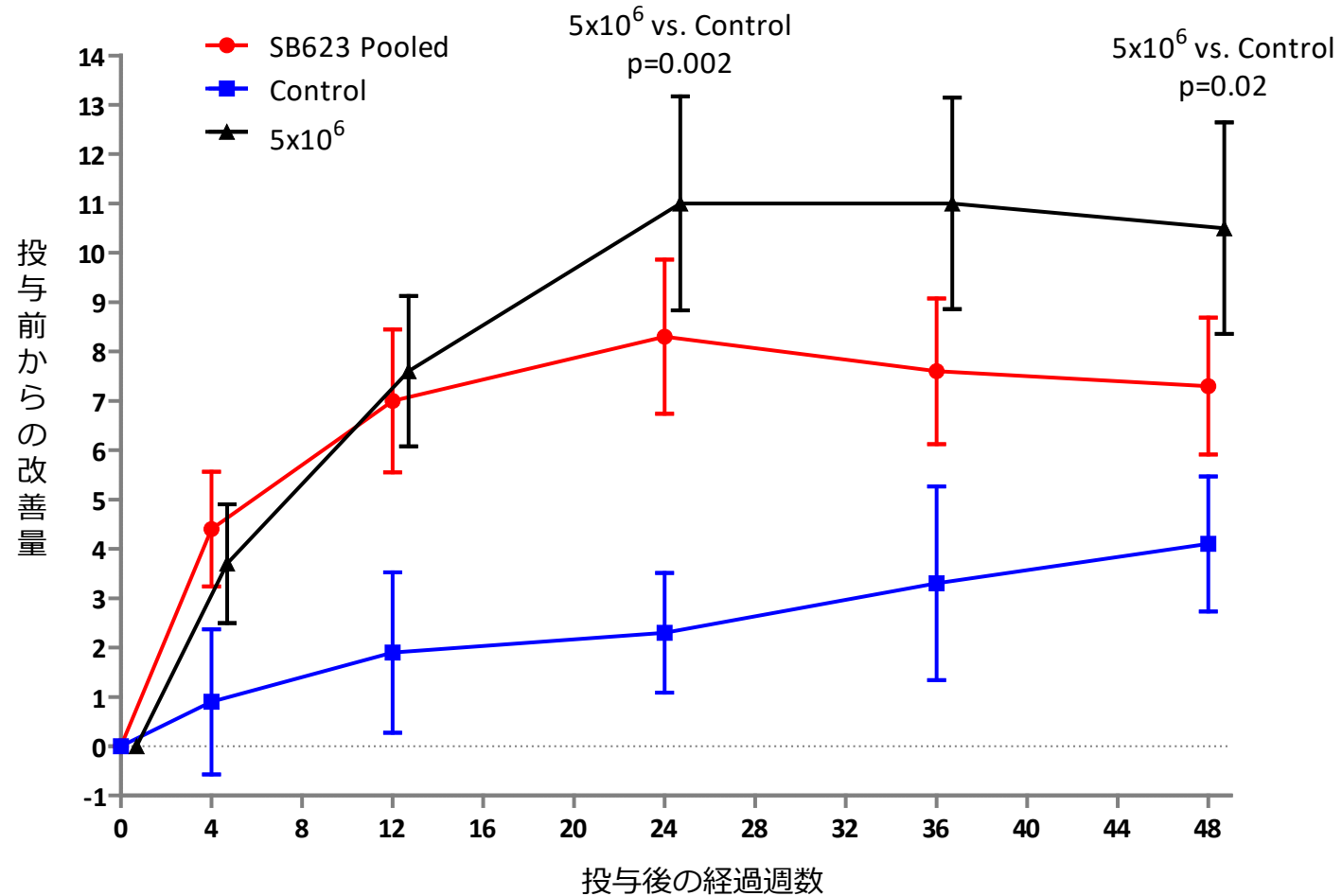
24週時点における投与前からのFMMS改善量（主要評価項目）



\*本試験で無作為化された63名の被験者のうち、61名がSB623投与手術或いは偽手術を受けた。

# 慢性期外傷性脳損傷フェーズ2臨床試験

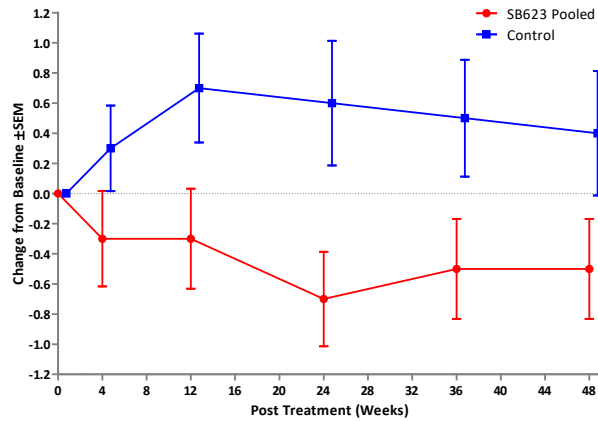
500万個投与群では、24週から48週時点において、対照群と比較してより明確な改善傾向を確認



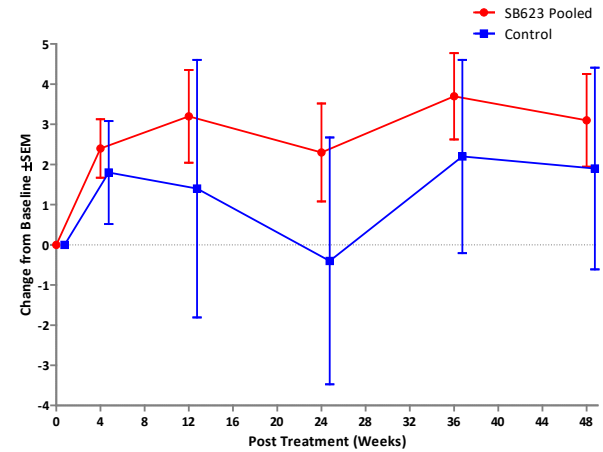
# 慢性期外傷性脳損傷フェーズ2臨床試験

SB623投与群では、FMMS以外の有効性評価項目においても、一貫して対照群より大きな改善を確認

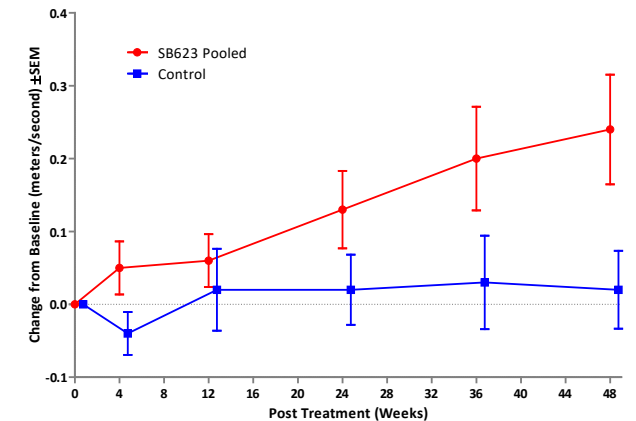
### Disability Rating Scale (DRS)



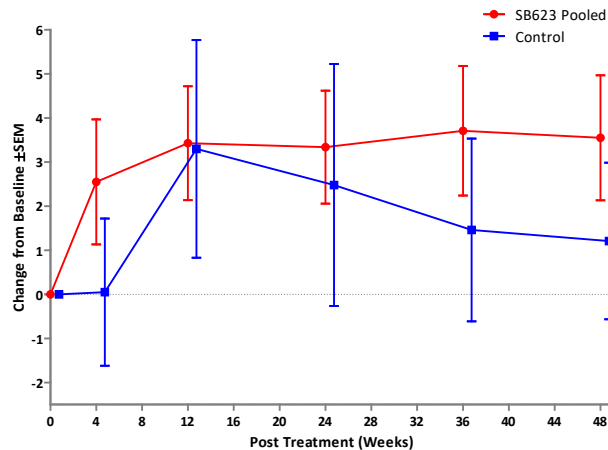
### Action Research Arm Test (ARAT)



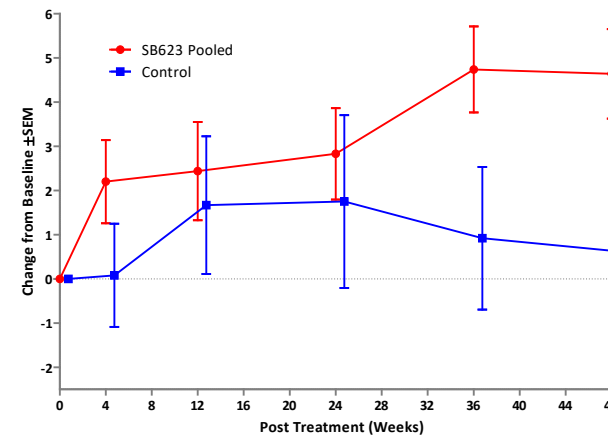
### Gait Velocity (歩行速度)



### NeuroQOL上肢機能Tスコア



### NeuroQOL下肢機能Tスコア





# 3. 研究開発状況

## SB623慢性期脳梗塞プログラム

# 慢性期脳梗塞フェーズ1/2a、フェーズ2b臨床試験

フェーズ1/2a試験においては、有効性を示唆するデータを取得したが、フェーズ2b試験では有効性主要評価項目を未達  
SB623治療に安全性・忍容性上の懸念は確認されなかった

## 【フェーズ1/2a試験概要】

- 試験デザイン：多施設共同、非無作為化、非盲検、非対照
- 試験期間：2年
- 被験者数：18名
  - 脳梗塞発症後6-60カ月経過
  - 安定した運動機能障害を有する
  - 中等度～中等度から重度の障害患者
    - NIHSS > 7
    - mRS 3 or 4
- 群構成：250万個:500万個:1,000万個 = 1:1:1
- 評価項目
  - 安全性
  - 有効性（6カ月時点のESS, NIHSS, mRS, FMS）

## 【フェーズ2b試験概要】

- 試験デザイン：多施設共同、無作為化、二重盲検、偽手術対照
- 試験期間：12ヶ月
- 被験者数：163名
  - 脳梗塞発症後6-90ヶ月経過
  - 安定した運動機能障害を有する
  - 軽度～中等度から重度の障害患者
    - mRS 2-4
- 群構成：250万個:500万個:対照群 = 1:1:1
- 有効性評価項目
  - 主要：6カ月時点のFMMS
  - 副次：6カ月時点のmRS, ARAT, Gait Velocity, NeuroQOL, GRPC

# 慢性期脳梗塞フェーズ2b臨床試験（追加解析）

主要評価項目及び試験対象患者の適切な選択により、  
次試験で統計的優位かつ臨床的意義のある改善を示すことが期待できる解析結果を取得

	評価項目	解析対象患者	解析結果
プロトコルで定義した解析	FMMS合計スコアにおいて、投与後6カ月時点でベースラインから10ポイント以上の改善を達成した患者の割合	試験組入れ患者全体	主要評価項目未達 対照群と比して統計的優位差無し
追加解析	複合FMMS：以下の3つのFMMS改善基準（ベースラインからの改善）の内、投与後6カ月時点で少なくとも1つを達成した患者の割合 ・FMMS上肢スコア $\geq$ 6ポイント ・FMMS下肢スコア $\geq$ 4ポイント ・FMMS総スコア $\geq$ 9ポイント	試験組入れ患者の内、梗塞巣サイズが一定量未満の患者	統計的優位差有り (P=0.02) 偽手術群(19%: 5名/26名) 治療群 (49%: 25名/51名)

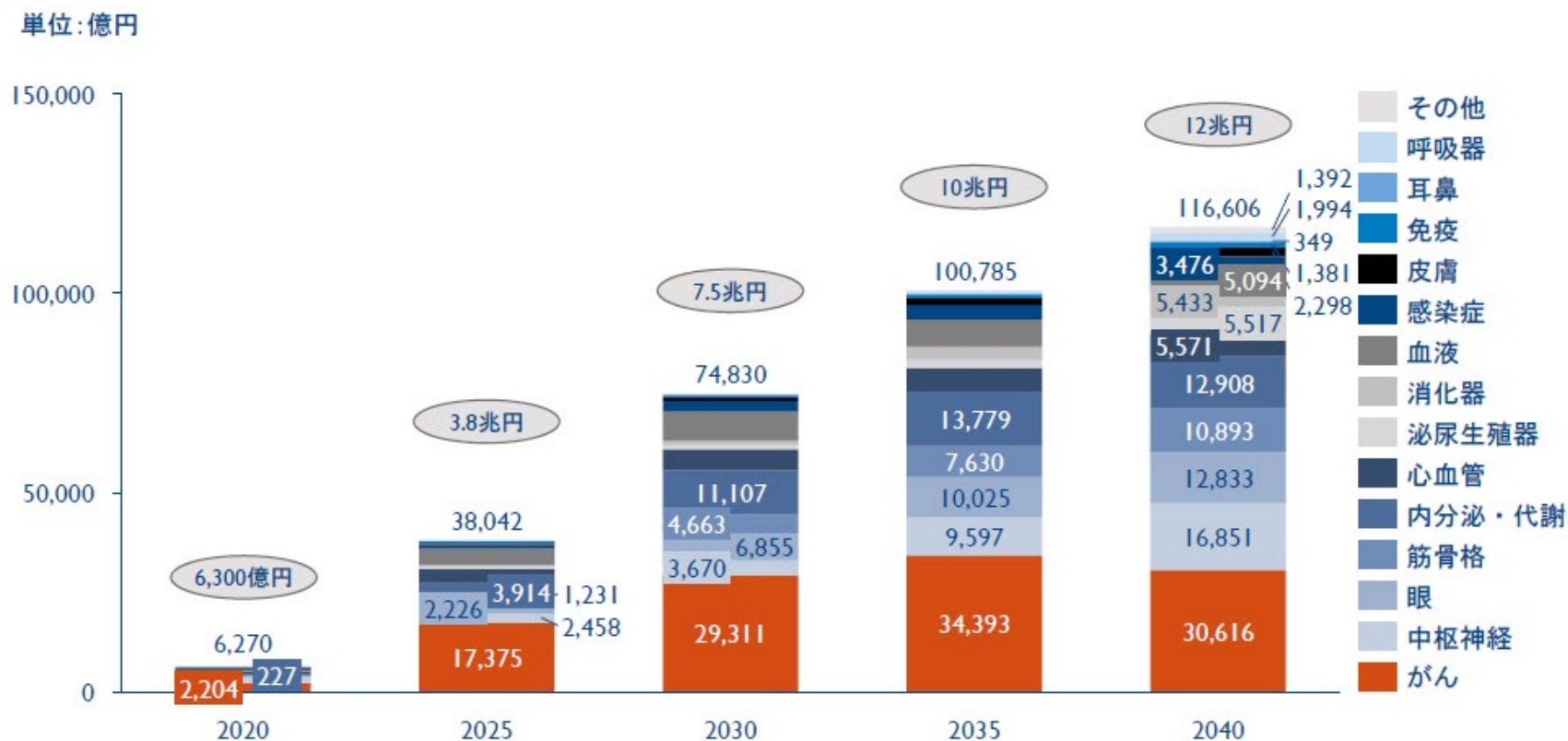
- 追加解析にあたり、MCID（患者における変化が臨床的に有益であると解釈できる最小の変化値）の観点から、慢性期外傷性脳損傷フェーズ2試験の結果も踏まえて評価項目を再検討した。元々設定していた主要評価項目と比較しても、治療効果の臨床的意義に関する訴求力が劣ることはないと考える。
- 追加解析対象患者として選定した患者群は試験全体の約半数を占めており、意味のある患者群であると考える。

## 4. 市場環境

# 再生医療・遺伝子治療市場規模予測（疾患領域別）

当社が注力する中枢神経系及び眼科領域はがんに次いで大きく市場拡大することが予測される

グローバル市場規模推計（疾患別）



出所：ADLデータベースよりアーサー・ディ・リトル作成

© Arthur D. Little Japan

出典：2019年度再生医療・遺伝子治療の市場調査業務 最終報告書2020年03月 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託調査)

# 再生医療・遺伝子治療市場規模予測（作用機序別）

当社が開発を進める細胞移植治療は、大きな市場拡大が予測される

グローバル市場規模推計（作用機序別）

単位：億円



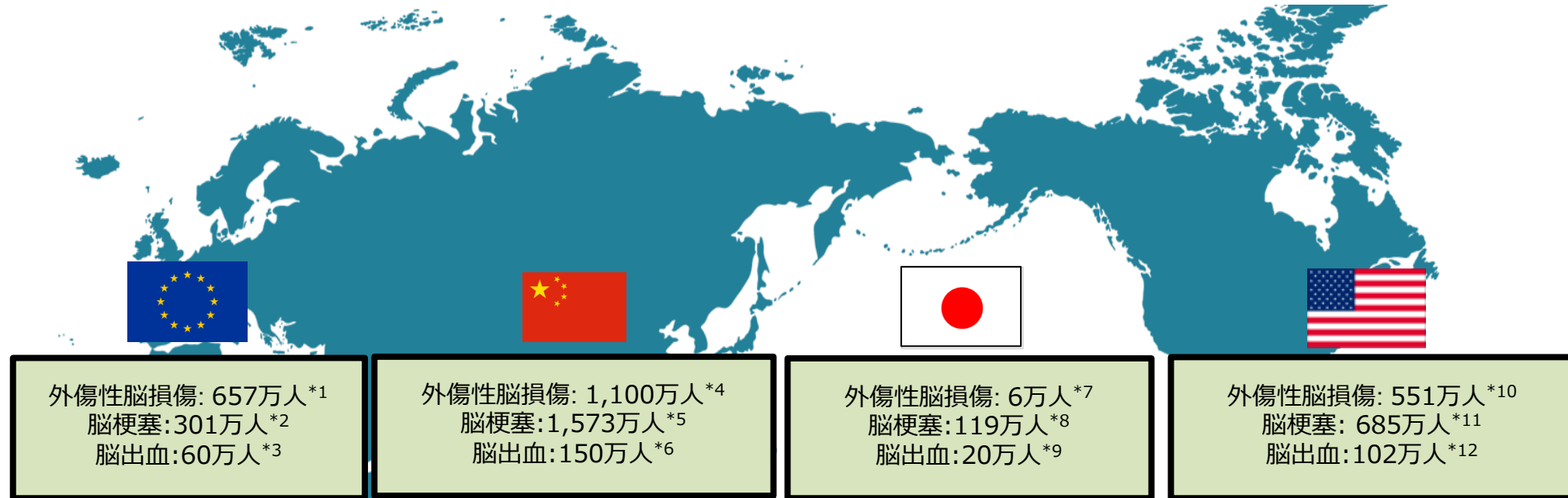
出所：ADLデータベースよりアーサー・ディ・リトル作成

© Arthur D. Little Japan

出典：2019年度再生医療・遺伝子治療の市場調査業務 最終報告書2020年03月 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託調査)

# 患者数

当社が開発対象とする疾患は有効な治療法が存在せず、患者数も極めて多い



\*1~\*3,\*10~\*12: 複数文献に基づく自社分析  
\*4: Arch Neurol. 1986;43(6):570-572 (Wang et al.)  
\*5: Circulation. 2017;135:759-771 (Wang et al., 2017).  
\*6: GHDx Healthdata IQVIA analysis 2020

\*7:厚生労働省患者調査2020「頭蓋内損傷」の患者数  
\*8:厚生労働省患者調査2020「脳梗塞」の患者数  
\*9:厚生労働省患者調査2020「脳内出血」の患者数



# 競合環境

当社が開発対象とする慢性期脳卒中、慢性期外傷性脳損傷を対象とした後期臨床開発段階の競合品（細胞治療）は限定的\*

実施者	開発地域	対象疾患	細胞種	投与経路	フェーズ	被験者数	盲検性	特記事項
Stemedica (US)	米国	脳梗塞 (慢性期)	他家、間葉系幹細胞	静注	2 b/ 3	300	盲検	試験実施準備中（2023.1.18 プレスリリース）
札幌医科大学	日本	脳卒中 (慢性期)	自家、間葉系幹細胞	静注	2	10	非盲検	試験実施中
札幌医科大学	日本	脳損傷 (慢性期)	自家、間葉系幹細胞	静注	2	10	非盲検	試験実施中
ReNeuron (UK)	米国	脳梗塞 (慢性期)	他家、神経前駆細胞	脳内投与	2 b	130	盲検	戦略的判断に基づき試験中止。自社開発終了。 （中華圏での開発はFosun Pharmaとの提携のもと継続）
Hope Biosciences (US)	米国	外傷性脳損傷 (慢性期)	自家、間葉系幹細胞	静注	1 / 2 a	24	非盲検	試験実施中
札幌医科大学	日本	脳梗塞 (急性期)	自家、間葉系幹細胞	静注	3	110	盲検	試験実施中
(株)ヘリオス	日本	脳梗塞 (急性期)	他家、間葉系幹細胞	静注	2 / 3	206	盲検	試験完了。主要評価項目未達（2022.5.20 プレスリリース）。
Athersys (US)	米国	脳梗塞 (急性期)	他家、間葉系幹細胞	静注	3	300	盲検	試験中断。
(株)生命科学インスティテュート	日本	脳梗塞 (急性期)	他家、Muse細胞	静注	2	35	盲検	試験完了。 開発中止（2023.2.14 プレスリリース）。
UT Health Science Center / Cellvation (US)	米国	外傷性脳損傷 (急性期)	自家、単核細胞	静注	2	37	盲検	試験実施中。小児を対象とした同様のフェーズ2試験も実施中。
NCメディカルリサーチ(株)	米国	脳梗塞 (急性期)	他家、間葉系幹細胞	内頸動脈 注射	1 / 2	16	盲検	試験実施中
帝人ファーマ(株) / JCRファーマ(株)	日本	脳梗塞 (急性期)	他家、歯髄由来幹細胞	静注	1 / 2	79	盲検	試験完了。主要評価項目未達。 共同開発終了（2022.4.18 プレスリリース）。
(株)RAINBOW	日本	脳梗塞 (急性期)	自家、間葉系幹細胞	脳内投与	1	7	非盲検	試験完了。 脳梗塞（慢性期）を対象とした後続試験の開始に向けて準備中。
北海道大学	日本	脳出血 (慢性期)	自家、間葉系幹細胞	脳内投与	1 / 2a	8	非盲検	試験実施中

\*フェーズ2b以降を後期臨床開発段階と考え、ClinicalTrials.gov、他社ホームページ情報等に基づく自社調査。







# 5. 事業計画

# SB623 今後の開発について

国内慢性期外傷性脳損傷プログラムを最優先。その後、脳梗塞の国内臨床試験へ

最優先

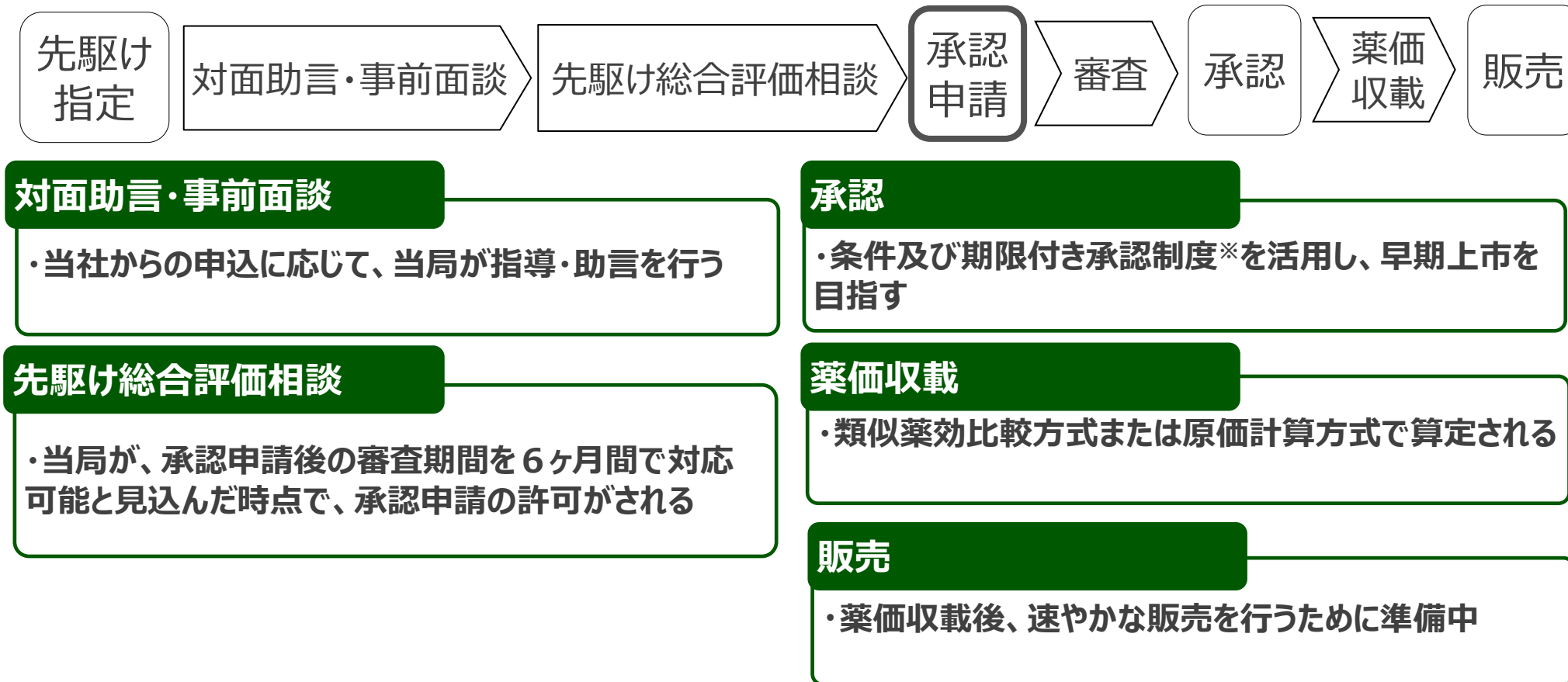
		  
慢性期外傷性脳損傷	2022年3月 承認申請完了 承認審査対応中	臨床試験の開始時期 について検討 (※2)
脳梗塞	臨床試験開始に向け PMDAと協議予定 (※1)	臨床試験を計画 (※2)
脳出血	臨床試験開始に向け PMDAと協議予定 (※1)	臨床試験を計画 (※2)

※1 国内慢性期外傷性脳損傷プログラムの承認取得後に協議予定。

※2 自社開発又はパートナーリング等のオプションを検討。

# 国内慢性期外傷性脳損傷プログラム：承認申請完了（2022年3月）

良好なフェーズ2臨床試験結果に基づき、先駆け審査指定制度の枠組みにおいて承認申請



※平成26年11月25日に施行された医薬品医療機器等法により、早期承認（条件及び期限付承認）制度が導入。均質でない再生医療等製品について、安全性を確認でき有効性が推定されれば、条件及び期限を付した製造販売の承認を取得できる制度（医薬品医療機器等法第23条の26より）。

# 国内慢性期外傷性脳損傷プログラム：部会審議結果を踏まえた今後の対応

2024年3月25日開催の薬事食品衛生審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会において審議され、継続審議と判断された  
今後は、承認取得に向けて、当局と協議し、品質に関する追加のデータ等を提出する

## 【審議の概要\*】

### 1. 主な議論と審議結果

これまでの経緯と今後の方向性について、了承。

#### (1) 臨床に関する論点について：

治験製品と本品との同等性／同質性が確認される前提ではあるものの、一定の有効性は期待でき、ベネフィットを踏まえる  
と安全性は許容可能。本品の有効性及び安全性に関する情報は現時点で限定的であるものの、本品を臨床現場に提供する意義  
はあるものと評価。

#### (2) 品質に関する論点について：

現時点で得られたデータでは、治験製品と本品との同等性／同質性は判断できない。

### 2. 今後の予定

企業から追加のデータ等が提出されれば、当該データ等に関する審査をPMDAで行い、改めて薬事・食品衛生審議会で本品  
の承認の可否について審議する予定

\*厚生労働省ウェブサイト「薬事・食品衛生審議会 再生医療等製品・生物由来技術部会におけるアークゴ脳内移植用注の審議の概要について」の転載

# 国内慢性期外傷性脳損傷プログラム：SB623製造販売承認後を見据えて

## 国内販売体制準備状況

- ✓ 承認条件に沿った販売体制の準備
- ✓ 様々な外部ステークホルダーと連携し、上市後、速やかにTBI患者さんに製品をお届けできる体制の構築

	現状
薬価	適正な薬価収載のための情報収集、戦略立案ならびに申請資料の作成準備中
診療報酬	SB623投与のための細胞調製や手術手技に対する、適切な診療報酬設定に向けた対応策の検討
販売体制	地域の実情に即した医療連携及び細胞移植や術後リハビリなどのフォローを行う「サンバイオ 地域医療連携」構想を、適正使用推進の観点から確立すべく検討中 承認後の適正な情報提供活動を推進確保するための社内CRMシステム構築済
流通体制	R-SAT®システムの特許取得済。発売後の活用に向けての実装準備中 細胞移植施設へのスムーズな製品配送を行うための流通スキーム確立に向けて卸各社との詳細な協議中
情報提供 資材	承認後の適正な情報提供活動とSB623使用の推進のため、公正競争規約に沿った医療従事者向け資材、疾患啓発資材動画などデジタル含む各種コンテンツを作成準備中
適正使用 推進体制	適正使用推進のための人員・施設要件案の策定 ICTを活用した症例適格性判定システム構築 市販後の安全性情報収集、当局への報告体制等の構築

# 連結損益計算書

2024年1月期は、営業外収益として為替差益1,746百万円を計上し、当期純損失が2,644百万円となった  
それ以外は、概ね期首予想通りとなった

単位：百万円	2023年1月期 実績(A)	2024年1月期 実績(B)	(B)-(A)	2024年1月期 予想
事業収益	-	-	-	-
研究開発費	6,118	2,849	▲3,268	3,195
事業費用	7,899	4,539	▲3,359	4,642
営業利益	▲7,899	▲4,539	3,359	▲4,642
当期純利益	▲5,559	▲2,644	2,915	▲4,598
\$USレート(円)	132.72	141.91	-	138.00

# 連結貸借対照表

SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの製造販売承認に関連する費用及び国内での市販後に向けた製造・流通・販売体制構築に向けた一定の運転資金を確保

	2023年1月期末(A)	2024年1月期末(B)	(B)-(A)
単位：百万円			
現金及び預金	6,732	4,454	▲2,278
流動資産	6,967	4,937	▲2,029
固定資産	77	109	32
資産合計	7,045	5,047	▲1,997
流動負債	1,090	905	▲184
固定負債	1,525	1,349	▲176
負債合計	2,616	2,254	▲361
純資産合計	4,428	2,792	▲1,636
負債純資産合計	7,045	5,047	▲1,997

\* 第三者割当による行使価額修正条項付第 32 回新株予約権、第三者割当による行使価額修正条項付第 34 回新株予約権（詳細は41頁に記載）

# 連結業績予想

2025年1月期は、SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの製造販売承認に関連する費用及び国内での市販後に向けた製造・流通・販売体制構築に向けた費用を主に、合計で3,339百万円の事業費用を見込む

	2024年1月期 実績	2025年1月期 業績予想
単位：百万円		
事業収益	-	-
研究開発費	2,849	2,040
事業費用	4,539	3,339
営業利益	▲4,539	▲3,339
当期純利益	▲2,644	▲3,359
\$USレート(円)	141.91	148.00



# 資金調達に関する説明（第32回新株予約権および第34回新株予約権）

## 主な目的

SB623国内慢性期外傷性脳損傷プログラムの製造販売承認取得後の速やかな製品普及に向けた費用の確保。

## 第32回新株予約権（行使完了）

具体的な資金用途	調達金額（百万円）	充当金額（百万円）	支出時期
① SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの市販開始後の製造体制構築及び在庫確保	6,609	6,609	2022年3月～2023年6月
② SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの市販開始後の普及体制構築	1,130	1,130	2022年3月～2023年6月
③ 慢性期外傷性脳損傷プログラム以外のSB623の新規適応拡大やグローバル（地域）展開に向けた日本での脳梗塞プログラムの臨床開発	-	-	-
合計	7,739	7,739	

## 第34回新株予約権（行使完了）

具体的な資金用途	調達金額（百万円）	充当金額（百万円）	支出予定時期
① SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの市販開始後の製造体制の構築と在庫確保	4,919	2,353	2023年6月～2025年11月
② SB623慢性期外傷性脳損傷プログラムの市販開始後の普及体制構築と普及活動の推進費用	1,516	120	2023年6月～2025年11月
合計	6,435	2,473	

## 6. リスク情報

# 認識する主要なリスク及び対応策

リスクの種類	リスクの内容	顕在化の可能性	顕在化の時期	影響度	対応策
新薬開発の不確実性／再生細胞薬の開発・製造に関するリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療用医薬品の開発には多額の研究開発投資と長い時間を要し、研究開発が予定通りに進行せず、開発の延長や中止の判断を行うことは稀ではありません。また、再生細胞薬は世界的にまだ本格的な普及段階に至っておらず、最先端の医療・医薬品に特有の課題やリスクが存在します。</li> </ul>	中	短期～長期	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なリスクシナリオを想定し、慎重な経営判断を随時行ってまいります。また、製造・安定供給面においては、製造オペレーションの強化に向けた施策を継続して実行しています。</li> </ul>
外部協力業者への依存	<ul style="list-style-type: none"> <li>非臨床試験や臨床試験の実施及び再生細胞薬の製造業務等はCROやCMOに委託しているため、外部協力業者の置かれている事業環境の変化等により、当社グループの望む支援が得られない事態が生じるリスクがあります。</li> </ul>	中	短期～長期	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約及び密なコミュニケーションを通して強固な協力体制を構築します。また、製造施設のBCPを常に把握しながら、万が一の事故や災害時に早期復旧が可能な体制強化を図ります。</li> </ul>
コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生細胞薬に関連する法規制は常時見直される可能性があり、法律に違反した場合あるいは規制の新設・強化や想定外の適用等に事業活動が抵触するようになった場合、監督当局による行政処分、訴訟対応、事業活動の停止、企業の信用失墜の可能性がります。</li> </ul>	中	中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬機法関連の会社規程の充実を図ります。また、コンプライアンス推進を管理監督するためのトップマネジメントへの報告体制、不祥事予防のための啓発・教育活動を継続していきます。</li> </ul>

※上記以外のリスクについては、直近の関東財務局に提出している有価証券報告書「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 事業等のリスク」をご参照ください。

# 免責事項

---

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として、経営情報や財務情報等の情報および将来の事業計画等を記載したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行なう際は、お客様自身のご判断で行なうようお願いいたします。

本資料に掲載されている当社の計画、戦略、判断などのうち、過去の歴史的事実以外のものは当社の将来の見通しに関する現時点での見解であり、当社が現在入手可能な情報・仮定および判断に基づいて作成されており、様々なリスクや不確実性を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等は、将来の事業環境の変化等を含む様々な要素によって変動する可能性があります。

本資料に掲載された情報につきましては、予告なく変更される可能性があります。本資料に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。

サンバイオ株式会社  
経営管理部

Email: [info@sanbio.com](mailto:info@sanbio.com)

※ 次の本開示は、2025年4月を予定しています。

